



養田全康議員

Q: 高齢者に対する歯と口腔の健康への取組について

A: 高齢者に介護予防検診の中で口腔機能向上を図るため
歯科衛生士が指導している。

障害者雇用の現状について

養田 各定例会ごとに障害者の雇用について質問をしている中、現在、身体障害者の募集のみだが、知的や精神障害についても雇用を広げる予定はないか。

また、選考委員には障害者についての専門家を配置して採用試験を考えているのか。

市長公室長 来年4月採用予定として、事務職で知的障害者1名の募集を予定している。採用については専門委員を入れて考える。

養田 今後も障害者の雇用の窓口を広げていただけるよう願います。

歯と口腔の健康について

養田 昨年6月に五條市歯と口腔の健康づくり推進条例が施行されているが、乳幼児や少年期における虫歯の無い3歳児の割合は県平均より低くなっている。この年代への取組をどのよう

にしているか。

また、高齢者に対しての取組はどうしているのか。

すこやか市民部長 歯磨き習慣を定着させるのが大事と考え妊娠中の母親へ産前産後の歯科検診無料券の発行や歯に関する保健指導も実施している。幼稚園、保育所、小学校ではフッ化物洗浄を実施し、40歳から節目の歯科検診を実施。高齢者に介護予防検診の中で口腔機能向上を図るため歯科衛生士が指導をしている。

養田 歯の検診は健康保険適用外だが、内科の検診同様に歯科検診が必要と考えている。

また、隙間の世代があるようだが、歯の一次予防をしっかりとすれば健康寿命が延びると考えている。行政には積極的に歯科医師会と連携して、歯に対する予防対策として定期健診に取り組んでいただきたい。

五條市の人口減少対策について

養田 人口減少が急速に進み2023年には空家が20パーセントを超えると予想されている中、五條市では空家情報バンクが開設され3年半がたったが、どのように活用しているのか。

都市整備部長 7件の申請があったが契約には至っていない。

養田 長い期間を掛けて成果が得られていないと感じる。大手の不動産業者や貸業者に協力を仰ぐとか、外からの力を加えて成果を上げていかないと投資した時間が無駄になる。市内の業者にも協力を仰いで対策を考えていただきたい。

五條市内の部活動の現状について

養田 五條市の中学生は昭和30年代のピーク時に2,663名いたのが平成28年には726名にまで減少し

ている。五條市の部活動の現状はどうなっているのか。

教育部長 市内各校の部活動設置状況は単独で対外試合ができない部活が10あり、また、廃部数は23ある。

養田 野球やサッカーでも合併チームで練習している。今後ますます、生徒が減少していく中で、毎年チーム編成が変わる状態になっているが教育委員会の部活動の捉え方を伺う。

教育部長 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は学校教育の一環として教育課程との連携が図られるよう示されている。合同チームの公式試合の可否は県中学生体育連盟の専門部が決定するようになってきているが、今後、合同チーム結成に係る課題を精査し県中学校体育連盟に働き掛けをする。





福塚 実議員

Q: 空き家に対する今後の対策と対応について

A: 土地建物の所有者に、適正に管理するよう
勧告文書等を送って対応している。

新庁舎建設の進捗について

福塚 アクセス道路の整備及び南北道への取組について尋ねる。

都市整備部長 新庁舎へのアクセス道路として、市道旧岡中線は設計業務委託契約が終了し、地元自治会及び地権者の方々に説明し、道路計画策定に向け進めている。

また、市道岡口3号線及び須恵1号線は、周辺自治会へ新庁舎建設計画の全体説明を行い、岡口3号線は本年度地形測量業務を発注し、地権者の方々に事業説明と、御了解を得て作業に着手したい。

また、南北道は重要な路線と認識しているが、まず、新庁舎へのアクセス道路となる市道岡口3号線・旧岡中線・須恵1号線の3路線の整備を優先したい。

今後は、南北道を含めた駅周辺の安全性、利便性などJR西日本、県、警察など

ど関係機関と十分協議してまいりたい。

福塚 地元住民への説明について尋ねる。

市長公室長 新庁舎建設計画やアクセス道路整備計画の事業推進に伴い、事前説明と周辺住民の協力と理解を得て進めたい。

福塚 南北道はこれまでも経過説明してきた。関係のある地元住民に、しっかりと説明願いたい。

空き家対策について

福塚 中心市街地の空き家問題について尋ねる。

都市整備部長 9月補正に予算計上し、空き家の実態調査を行う。まず、水道の利用状況及び自治会からの空き家情報を整理し、現地での調査や所有者調査の後、データベースを進めたい。

福塚 今後の対策と対応について尋ねる。

産業環境部長 市の条例により、土地建物の所有者は周辺の環境整備に努めるこ

ととなつており、適正に管理するよう勧告文書等を送って対応している。

市の施設について

福塚 旧五條市衛生センター（し尿処理施設）の解体や今後の予定を尋ねる。

産業環境部長 解体を平成29年度から平成30年度で予定し、跡地は地元二見地区自治連合会と内容を協議していきたい。

福塚 旧五條消防署の現状と今後の対応を尋ねる。

理事 消防本部が新庁舎に移転後、用途変更を行い、物品等の保管場所として、また、旧消防長室を更生保護サポートセンター五條の活動拠点として利用している。

福塚 耐震ができていない施設で大丈夫なのか。

理事 市全体の公共施設の在り方について策定中の公共施設等総合管理計画の中

で、解体も含め検討する。
福塚 他にも耐震ができていない施設や、見通しの悪い施設もあるので、安全確保に努めてほしい。

陸上自衛隊駐屯地及び消防学校の誘致について

福塚 誘致の現状について尋ねる。

危機管理監 調査候補地に順位を付け、本年度から県と防衛省の調査はプレディアゴルフ地区で実施。消防学校を含む県広域防災拠点が行って整備される予定である。

福塚 誘致場所へは上野町や二見からのアクセス道となるが、御蔵橋などの架け替えについて尋ねる。

危機管理監 県のアクセス道の調査後に協議したい。
福塚 御蔵橋は大型車両が通れば片側通行となるので、県の計画に入れてもらえないか。

危機管理監 基本的なことは調査後になるが確認していきたい。

Q: 五條病院リニューアル後の看護師等の確保について

A: 3病院の今後の運営を検討した上で、看護師等の配置を行うので、まだ決まっていない。大谷龍雄議員



五條病院リニューアル後の 医師、看護師の確保について

大谷 南奈良総合医療センターが4月に開院し、外来患者数が1日平均502人、入院患者数196人、病床稼働率84・7パーセント等の状況で、医師・看護師・職員の皆さんは大変な努力をしていただいていると思います。

また、五條病院も来年4月に再開が予定されており、診療科目は外来診療と内科、整形外科で90床と聞いていますが、必要な医師、看護師を来年4月までに確保するため、どのような取組をしているのか。

五條病院リニューアル前に辞めていただいた看護師に再度お願いする必要があるのではないか。



すこやか市民部長 平成29年4月から再開する五條病院は、急性期医療は終了したものの療養入院を必要とする患者を受け入れる病院として、内科、整形外科等身近な外来機能を有する役割を担うこととなります。

医師・看護師等の確保について南和広域医療企業団に確認したところ、「五條地域における病院機能のニーズを把握し、一方で、南奈良総合医療センターや吉野病院を含めた3病院の今後の運営を検討した上で必要な医師・看護師の配置を行うこととなっております。現在では決まっております。」との回答でした。

また、看護師の募集については、「企業団のホームページ、都道府県看護協会のナースセンター、構成団体のホームページ、新聞折込み求人広告、看護専門学校への訴えを行っており、

これまで18人の内定者を出すことができ、現在、第3次募集期間として、募集を行っている。」と回答をいただいております。

以上の質問とともに、次の質問も行いました。

1. 学校適正化に関する資料や方針の詳しい説明と関係者の意見を重視した学校適正化の検討について

2. 豪雨、強風、地震等の災害防止対策の強化について



ゲリラ豪雨



3. 核兵器禁止、紛争の平和的解決を目指した世界の動きから考えた陸上自衛隊の駐屯地及び、ヘリポート誘致の見直しについて





宗部康寛議員

Q：駐屯地誘致の今後の機運を高めるPR活動について

A：吉野郡3町8村とも連携しながら機運を高める準備をしたところである。

陸上自衛隊駐屯地誘致の重要性と必要性について



宗部 現在の誘致活動の進捗状況としては、調査順位をプレディアゴルフ地区に納めたという説明を受けているが、今後どのような調査が行われるのか伺う。

危機管理監 奈良県の調査は、消防学校を含む広域防災拠点整備に伴う基本構想策定の調査とアクセス道路の調査である。

防衛省の調査は、自衛隊が県広域防災拠点を活用する場合に考え得る基本構想策定調査が実施されるものと思われる。

宗部 調査地決定の理由は、

ヘリポートを併設した広域防災拠点整備の計画段階において、用地の拡張性としては有利、そして地盤の切土・盛土量が少なく、比較的造成面からやや有利であるといった理由から、奈良県と防衛省が決定したが、ヘリポートを併設した計画内容・規模について伺う。

危機管理監 現段階では県広域防災拠点のイメージ図は、本年度の県の調査により、消防学校や広域防災拠点に必要な機能・設備等について調査され、今後の計画に反映されるものと思われる。

宗部 この駐屯地誘致計画は奈良県と五條市だけの問題ではなく、南海トラフ巨大地震の発生が危惧される中、紀伊半島全域に関わる防災対策という点では、三重県・和歌山県にも、大変重要な位置付けであるという御理解いただく必要があると思われる。

災害時の公助の体制強化をはかる上で、災害時に迅速な対応展開を可能にするために、この駐屯地誘致を実現させたいものである。そこで、今後の機運を高めるPR活動の取組について伺う。



危機管理監 地域からの駐屯地配置機運を高めることが必要であることから、吉野郡三町八村の各首長並びに、五條市及び吉野郡選出の県議会議員の賛同を得、奈良県知事に顧問に就任していただき、奈良県南部陸上自衛隊駐屯地誘致推進協議会を設立し、今後の展開を図る予定である。

さらには、東日本大震災において後方支援拠点となった岩手県遠野市長を講師としてお招きし講演会の開催、また自衛隊音楽隊による演奏会を開催する予定である。

宗部 今後も奈良県知事並びに、関係者とともに首長として要望活動に御尽力いただきたいと思っているが、市長の見解を求めます。

市長 紀伊半島全体の位置付けということで、吉野郡三町八村とも連携しながら機運を高める準備をしたところである。

市民の皆様方の御理解を得られるように努力もし、また防衛協会の皆様方との連携を取りながら五條市全体の機運を高めてまいりたい。

宗部 自衛隊駐屯地が絶対必要だと認識してもらえないような内容をもって、関係者の方々と市民の皆様方が、意識を共有し重要性を高めてもらいたい。